

児童と共に学ぶ『笑学ワークショップ』の魅力

事務局スタッフ・フリーアナウンサー 蘭田涼子

子供達のコミュニケーション能力を上げる為の『笑学ワークショップ』の力の凄さを思い知る事が多々あります。中でも感じるのは、子供達の反応も然る事ながら、授業をしている芸人さんがメッチャ成長して行く事です。

まず、このワークショップをする時に「子供扱うの上手いですから大丈夫です!」という芸人さんは、この時点でもうアウトです。“小学校での授業=相手は子供”と思っていたら大間違い! 相手が子供だからこそ大変です。内容や言葉遣いこそ小学生を意識する必要はあるものの、相手が“お客様”である事に変わりはありません。それ以上に、子供たちにとっては自分たちの日常の世界に芸人さんがやって来るのですから、人生変わるくらいのスゴイ事! です。一挙手一投足を見逃すまい、聞き逃すまいと全身で聴いてくれています。そんな子供達と即興でコンビを組んで漫才の形を伝えるのですから、中々の冷や汗モンです!

「プロの漫才の人と一緒にやってみたい人!」と言って手を挙げてくれるだけでもスゴイ事ですから、前に出てきてくれた子に恥をかかせてはいけないし、どんな形でも「勇気出して手を挙げてヨカッター!!!」と思って貰う事が最低条件です。プロとして、そんな瞬間・瞬間を何十回と経験していくと、単なる自信だけでは無く、少しオーバーな言い方をすると、自分たちが世の中から必要とされている! という気になってきます。それが“芸”にも繋がっていくんだと思います。

この『笑学ワークショップ』を何代にも亘って伝えていく事と、『笑学』出身の人気漫才コンビ! というキャッチフレーズがいつか使われる様になる事が夢です。もう一つ言うなら、小学校で『笑学ワークショップ』を見た事がキッカケで漫才の道を歩き出した! というコンビにいつか出会える事が夢のまた夢です!



※多賀城市立八幡小学校にて 写真ご提供 井上大治さん(写真左)

どうしてなのか



笑学 笑いを通してコミュニケーション

漫才のワークショップでボケとツッコミ体感! 子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図ります。

いじめや学級崩壊など教育現場では様々な問題がありますが、その原因の一つに子どもたちのコミュニケーション能力の不足があると私たちは考えています。伝えたいことをきちんと伝えることが出来るなどコミュニケーションがしっかり取れれば、いじめにつながりそうな出来事も未然に解決されるのではないのでしょうか。そこで、まさにデジタル世代の小学生に対して、関西の演芸文化の真骨頂である漫才からボケとツッコミを体感してもらい、相手の話を聞き、話の展開を読む力や互いの信頼関係を構築していくアナログのコミュニケーション力『笑学』を体験できるワークショップを企画しています。この企画は、私たち関西演芸推進協議会のプロデュースにより、無償にてワークショップを実施しております。

主催: 特定非営利活動法人関西演芸推進協議会
特別協力: (株)JOSHO、前田葉子様
協力: 相互タクシー(株)、(株)小学館集英社プロダクション
(株)寺岡精工、千房(株)
対象: 大阪府下の小学校
(募集中※応募校多数の場合は抽選にて決定)



関西の上質な演芸文化のために...

上方演芸の文化に触れ、共に育む活動を一緒にしませんか... 関西演芸推進協議会では、関西の演芸を盛り上げ、若手芸人の活躍を支援し、演芸の伝統を守り次世代へと継承していくために様々な活動をしていきたいと思っています。

公式ウェブサイトもご覧ください。
<http://www.walive.org>



編集後記 少い昔ですが、「のんき君」という漫画があり、4コマで「お」「は」「よ」「う」の展開。画はその4文字のみで1日が終わるといふ単純な運びながら、強いインパクトを受け、今もその画が時々浮かんでくるほど。この会報誌を編集していると、「春」「夏」「秋」「冬」も早く過ぎ、まさに4コマ漫画で表現されそうな展開です。1コマごとにいろいろな思いも込めながら、「のんき君」になれたらいいなあ~と思ったりにしています。(編集部・廣田)



NPO法人関西演芸推進協議会 会報誌

笑ライブ 第22号

walive

「笑ライブ」とは...

「笑」「商」、SHOW(見せる)=LIVEという意味と、「WA」の意味する平和の「和」、みんなで手を繋ぐ「輪」の思いから名称にしました。

2016年4月

【発行】
NPO法人関西演芸推進協議会 編集部
〈事務局〉
大阪市浪速区難波中1-10-4
千房株式会社内
TEL.06-6633-1430
FAX.06-6633-1435
<http://www.walive.org>
info@walive.org

INFOMATION

会員の皆様には、いつも当協議会へのご理解、ご協力をいただきありがとうございます。当協議会は、今年でいよいよ10年目を迎えようとしています。発足当時のことを懐かしく思いながら、今日まで多くの方と様々なご縁をいただき、またお力添えをいただきながら歩んできた月日に色々な思いが溢れます。今号では、「第4回関西演芸しゃべくり話芸大賞」の結果発表とご報告をいたしました。エントリー数も前回より増え、また、4回目となることで、認知度も向上してきているように思います。「笑学プロジェクト」も好評開催中。今後も発足当時の気持ちを忘れることなく、様々な活動を推進してまいりますので、皆さまのご理解、ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

CONTENTS

- ☆「桂春団治師匠を偲んで」桂福団治
- ☆第4回関西演芸しゃべくり話芸大賞予選 1頁
- ☆第4回関西演芸しゃべくり話芸大賞・優勝決定戦 2頁
- ☆新春例会
- ☆コラム「芸人さんに学ぶ3分間スピーチのコツ」..... 3頁
- ☆子どもたちと共に学ぶ「笑学ワークショップ」の魅力
- ☆「笑学」のご案内 他 4頁

惜別 桂春団治師匠を偲んで

思えば半世紀以上前に成ります。故郷の三重・四日市より三代目桂春団治師匠に入門しようと思いましたが、周囲は大反対でした。それでも決意の変わらない私を、父は詩吟「人間至る所青山あり」(志を立てて家を出たならば成功するまでは帰ってはならない)をうたって送り出してくれました。思えば、あの時、父の詩吟を背に受け、学制服姿で入門して以来、半世紀以上になりました。その間、師匠の弟子として仕えさせていただき、本当に良かったと感謝しております。

私のために色々とお叱りいただきました。私だけではありません。上方の落語家は師匠の前では背筋がしゃんと伸びました。そんな時、師匠の口からポツリと出る冗談で皆が和んだのも、今となっては良い思い出です。

師匠のもとで修行させていただいたおかげで、伝統と作法が骨の髄まで染み込みました。それが今、私の一番の財産となっております。

私も若い頃は、マスメディアで落語以外の事や、寄席でも奇をてらうような斬りをしてみたりと、色々な事をしていました。しかし、福団治を襲名させていただいた頃からは、師匠と同じように古典を中心とした落語で勝負したい、と思うようになりました。そういうふうにならされたのも、師匠の古典落語に対する真摯な姿勢を勉強させていただいたおかげだと感謝しております。

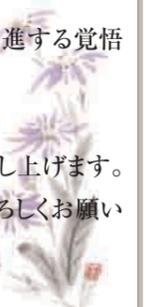
いつも叱られてばかりの私が、最後にお見舞いに行った時の帰り際「明日、また参りますので、今日は失礼します」と言うと、いつもは厳しい師匠が「ありがとうございます」と心に響くような言葉をかけてくださいました。そんなことを言われたのは初めてのことでしたので驚き、感激しました。しかし、それが師匠との最後の言葉のやりとりとなってしまいました。

今後は師匠の教えを守りながら、弟子一同、一丸となって精進する覚悟です。

師匠、ありがとうございました。

最後に、師匠が皆様からいただいたご支援に謹んで御礼申し上げます。これからも師匠の作りあげた一門、そして上方落語をどうぞよろしくお願いたします。

関西演芸協会会長・NPO法人関西演芸推進協議会副会長 桂福団治



第4回「関西演芸しゃべくり話芸大賞」予選

2015年9月12日(土)・13日(日)
於)道頓堀ZAZA Pocket's

今回のエントリーは150組。予選会場は前年同様、道頓堀ZAZA POCKET'Sで9月12日(土)、13日(日)に行われました。エントリー数も150組と、前回より多かったことで、審査の方もかなり混戦した結果、決勝には10名の枠を超えて、13組を決勝進出者に決定しました。決勝戦の様子と結果は次項でご案内しています。



2日間司会進行をされた蘭田涼子さん。1組ごとのコメントがまた笑いを誘います。



4回目の賞レースは13組の競演!

「話芸とは、会話のおもしろさを磨き、芸にしたもの」

第4回となる「関西演芸しゃべくり話芸大賞」優勝決定戦は千日前、なんばグランド花月地下のYES THEATERが会場となり、10月17日(土) 17:00から開催されました。

開会の挨拶の後、13組出番を決める場面では、出場者のヒヤヒヤした表情が見られるもまた臨場感たっぷり。各組持ち時間7分で勝負が決まります。

予選より緊張していたコンビ、また違った表情を見せてくれたコンビなど、様々でしたが、この日を迎えるまで、それぞれに稽古を積んできたようでした。

そして!結果発表…優勝は「どんぐり兄弟」、準優勝には「チャリンコクラブ」が選ばれました。どちらのコンビも初挑戦。また昨年までと違った世界観を見せてくれたように思います。が、しかし、審査員の先生の総評では、厳しい言葉が次から次へ…「芸の道」の厳しさ!ありがたいアドバイスとして、しっかり受け止め、明日からの活動に繋げて欲しいと思います。

また、今回初めて会場となったYES THEATERでは、舞台演出もプロジェクションマッピングの技法を取り入れ、新しい舞台演出も楽しみの一つとなりました。

審査結果を待つ間には、お客様にはゲストで元OSKトップスターの桜花昇ぼるさんの歌とダンスのショーをお楽しみいただきました。美しい演舞はお笑いとは一転して、艶やかで華麗な舞台に…。退団されてからも益々のご活躍で、また機会があれば観劇したく思います。

初秋のミナミの街での夕べ。熱い戦いが今年も夜空を照らしているようでした。さあ、第5回はどんな熱戦が繰り広げられることか…また、今から準備に取り掛かりつつも、楽しみにしています!



優勝決定戦進出 13組



2016年の新春例会の幕開けは、備中神楽の獅子神楽で1年の息災延命を祈禱いただく、新年に相応しいオープニングセレモニーで開会しました。

例年のごとく、今宮戎から3名の福娘さんが福笹を手に壇上へ。華やかで美しい福の到来を感じながら、大阪締めで今年もご参列の皆様とともに志を一つに結ぶことができました。また、各業界でご活躍される方々のご臨席も賜り、共に例会を開催した難波スイス会の皆様との深い結びつきも、宴の席により一層の華を寄せてくださいました。広い会場も約300名のご参列で、賑やかな例会となり、受付で配布された番号札を手に、お土産の「福」を獲得しようと、2度、3度の盛り上がりを経て、艶やかな1年のスタートを切ることができました。



Column 芸人さんに学ぶ「3分間スピーチ」のコツ

…人間は、考えることが少なければ少ないほど、よけいしゃべる…(哲学者 モンテスキュー)

思いがけず挨拶をすることになって、話の出口が見えず困ったことはありませんか。ある経営者はスピーチの予定がなくてもネタのひとつやふたつは心積りしておくもんや、…といいます。やはりなにごと準備が肝心。参考にしたいのが芸人さんの話術です。

まずスピーチの基本は「3分間を3つの話題にわける」など、ダラダラ展開しないことがコツ。

自己紹介なら、「1分過去⇒1分現在⇒1分未来」というように、スピーチの台本をつくるのです。たった1分ではまとめられないと思う方もいるでしょう。しゃべくり話芸大賞の予選は4分。本選は7分ですが、話の起承転結が実にはっきりしています。3分を180秒、原稿用紙なら400字詰2枚半と考えて、しっかり中身をつくることでスピーチにメリハリがうまれます。あえてしゃべらない沈黙も効果的。

笑いはその絶妙な「間」によって生じます。

ある芸人さんが話してくれました。「舞台上演しているのはわずか数分。それが仕事です。真剣勝負なんです」と。ただ、詰め込みすぎても、相手に伝わるのはせいぜいひとつかふたつ。ポイントを絞り込むことが大切です。何を一番伝えたいのか。どうすればそれが相手に



伝わるのか。コミュニケーションの基本ですね。偉そうに書いていますが、実際にはとても難しいことです。

話芸大賞の控室、みなさん出番のギリギリまで練習に余念がありません。しゃべりの達人な芸人さんですが、実は人の話もよく聞いています。「相手の話をよく聞くこと」は漫才の鉄則なのだそうです。だから芸人さんは現場の空気をうまく引き寄せてそれをネタに話ができるのですね。

次回はみなさんの3分間スピーチを事務局一同、楽しみにしています。

(関西演芸推進協議会 事務局 石井サト子)